

慈明院寺報十月号

象の耳に念仏



昔、インドの王様が一頭の白象を飼っていた。その白象は性格がとても凶暴で戦争が起これば兵器となり、また罪人を踏み殺す死刑係の役割も果たしていた。ある時、白象の象小屋が火事で焼けてしまった。すぐに王様は新しい象小屋を建てたのだが、その場所は仏教寺院の隣であった。

仏教寺院では朝夕、大勢のお坊さんの読経が響く。すぐ隣の象小屋で白象は聞くとともにしにお経が耳に入る。するとだんだん白象は、おとなしくなっていく。やがて白象は人を踏み殺せなくなり、戦争はおろか、死刑係としても役に立たなくなってしまう。

「このままでは戦争の時に困る。」王様は一計を謀った。なんと象小屋を食肉処理場の隣に移したのである。食肉として命を奪われる動物を見て、白象は元の凶暴さを取り戻したであった。

『近朱者赤 近墨者黒』これは中国の儒学者・孟子の言葉で「朱に交われれば赤くなり、墨に交われれば黒くなる。」という警句である。悪人に近づく者は悪人になり、良い行いをする人に近づけば善人になる。周囲の環境は人にとっても非常に強い影響力がある事を考えさせられる。

身近なインターネットの世界、ネットの上での誹謗中傷に対して厳罰化が検討されている。罰則に、より重い懲役や罰金を追加するという。文字だけの世界でも、人はその環境に心を乱される。環境によって心は様々な影響をうけている。馬ならぬ象の耳に念仏でも決して無駄ではない。そこから慈しみが生まれる事もあるのである。

住職 合掌

塔婆供養成満の御礼

去る九月二十三日（秋分の日）、当院本堂におきまして塔婆供養をお勤めさせて頂きました。塔婆供養の申し込みを頂きました皆様に篤く御礼申し上げます。またコロナ対策のマスク着用で参拝下さった皆様、誠に有難うございました。ご供養させて頂いた塔婆は、納骨堂横の『供養堂』に来年のお施餓鬼まで約一年間、安置奉納致します。どうぞご来寺の際はお参り下さいませ。

合掌

聖天様 断ち物祈願法会のご案内

来る 令和三年 十一月三日（水曜日）文化の日

午前十一時より



『聖天堂』（丸い円形の御堂）に鎮座している大聖歓喜天（通称・聖天様）をお祀りする法会です。住職が風呂敷敷護摩というご祈願を行い、今年最後の厄祓い、慈明院の締めくくりの法会です。どなたでもご参拝できます。どうぞお参り下さいませ。（昼食と聖天様の好物・大根をお接待致します）



慈明院（〒八一一一三三 福岡市早良区大字西二三四一〇）
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四